ペットボトルのキャップで

地球と子どもの未来を守ろう

ペットボトル飲料を飲んだ後、ボトルをリサイクルに出している方は多いと思いますが、キャップはどうしていますか？そのキャップ、リサイクルできるだけでなく、世界の子どもたちへの支援にもつながっています。



キャップもリサイクルへ

ペットボトルの本体は多くが回収され、リサイクルされていますが、実はキャップはあまり回収されていません。ごみとして燃やされると二酸化炭素（CO_2）を排出するため、地球温暖化につながってしまいます。

そこでコープデリグループでは、本体だけでなくキャップも回収し、リサイクル資源として活用。石油から作られるプラスチックをリサイクル資源に置き換えるため、その分の石油使用量を削減できます。大切な地球の資源を守り、地球温暖化防止につながっています。

コープデリのお店の買い物カゴにも生まれ変わっています



1カゴあたり**97個分**のペットボトルキャップを使用。新たに使うプラスチックを**約30%削減**しています。

今回の取り組みは、目標16：

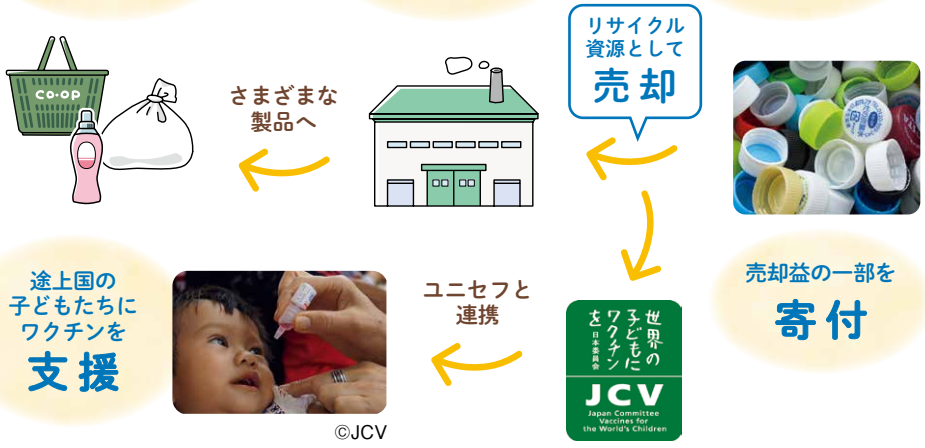
平和と公正をすべての人に

につながっています。

コープデリのエコ活

コープデリグループでは、地球と私たち生きものに悪い影響を与える「温室効果ガス（特にCO_2）」「使い捨てプラスチック」「食品ロス」をなくすことをテーマに、「コープデリのエコ活」に取り組んでいます。

ペットボトルキャップが 地球の未来を守る＋子どもたちの命を守る



世界の子どもにワクチンを

1日4000人。ワクチンがないため、命を落とす子どもの人数です。世界では、ポリオや破傷風など、ワクチンで予防できる感染症が子どもの命を脅かしています。

こうした子どもたちの命を守るため、コープデリグループでは回収したペットボトルキャップをリサイクル資源として売却し、その売却益の一部を「認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会（JCV）」に寄付しています。寄付金は、ミャンマー、ラオス、ブータン、バヌアツを中心に、ワクチン接種や関連機器を届ける活動に役立てられています。

ラオスでの支援の様子

東南アジアに位置するラオスは、山がちな国土で舗装されていない道路が多いなど交通アクセスが悪く、ワクチンを運ぶことが難しい地域が多くあります。また50の民族が暮らし、言語が異なるため啓発活動が難しい、看護師が不足している、などの課題もあります。JCVは2007年からラオスでの支援をスタート。診療所から離れた山岳地域に暮らす子どもへのワクチン接種や、ワクチンの保管に必要な保冷庫などの支援を続けています。ジフテリア・百日ぜき・破傷風のワクチン接種率は当初50%でしたが、2024年には76%にまで向上しました。



ペットボトルキャップの回収にご協力ください

回収方法 すすいで乾かし、こまめにお出しください。

- **宅配** 商品お届け用のポリ袋に入れ、袋の口をしばって出してください。
- **お店** 店頭の回収ボックスに入れてください（袋などには入れないでください）。
  ※一部コープのお店がない地域があります



6月に2025年度分の寄付金贈呈式を開催し、JCV奥寺憲穂事務局長（写真左）にコープデリ連合会熊﨑伸理事長から目録を贈呈しました

2012年からの キャップ回収量
約9億6,921万個分（重量から換算）
寄付金額 **2,292万9,900円**

コープデリグループは、事業と活動を通して「SDGs（エスディージーズ）（持続可能な開発目標）」の達成を目指しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS